



NIBの歴史を変えたのはワッチャンだー！

グランドチャンピオン戦でついに子どもが優勝してしまった。第4回を迎えたグラチャンを1月7日（日）板橋平和公園で開催したが、決勝でワッチャンが松ちゃんに逆転勝ちし、栄光のGPカップを手にした。昨年からの子どもの優勝が増え、この日が来るのを薄々は感じていたが、まさか本当にそうになってしまうとは。

シード権のない予選からの勝ち上がり組は6名、その難関を突破したのはマサ兄、グッチ、カンタ、伊佐P、岩ガン、カイチョーだ。待ち受けるシード組はマイちゃん、ユコリン、松ちゃん、ワッチャン、ダイゴ、ユリー、タイキロー、トシ田口、Mr.高橋、六角渡部の10名、いずれも昨年のタイトル保持者だ。決勝リーグでの引き分けは負けに等しい。何とか勝点3を取りに行く戦いなのだ。その中から決勝トーナメントへ勝ち上がったのは、マサ兄、松ちゃん、カイチョー、ワッチャン、ダイゴ、Mr.高橋、伊佐P、ユリーの8名だ。

これまで予選からの勝ち上がり組で優勝した人はいない。そのセオリーを何とかくつがえせるかと期待したが、マサ兄、カイチョー、伊佐Pの3名はユリー、Mr.高橋、松ちゃんの壁を越えられなかった。そして決勝はワッチャンと松ちゃんのペアマッチコンビの対戦となった。2本飛ばして2-1とリードした松ちゃん、このビッグタイトルを前にいつもの手の震えがない。今回は順当に松ちゃんが優勝かと思った瞬間、痛恨の床はずしで同点に追いつかれる。こうなると気持ちの上で優位に立ったワッチャン、観衆も味方につけ腕を一振り、果敢に攻める松ベーを逆に弾き飛ばした。両腕を高々と上げ勝利の雄叫びをあげるワッチャン、優勝カップと2枚の賞状を手にも満面の笑顔がさわやかだった。

女流はユリーが第4回チャンピオン

女流でただ一人決勝トーナメントに進出したユリーが女流王を獲得した。しかもベスト4という好成绩のオマケつきだ。一大旋風を巻き起こした伊佐三姉妹はやはり強かった。ところで、これだけ子どもと女流が強くなると逆に“おとなの部優勝”が必要じゃないかと六角渡部、うーん何だかそれも悲しい。

名人戦初場所トップはハジィ、2位はマイちゃん

第六期名人戦がスタートした。参加者39名が11月の千秋楽まで総当りで戦う。肝心なのはスタートダッシュだ。後半追い込むのは厳しいから、できるだけ前半に得点を重ねたい。その初場所で勝点17を挙げ暫定トップに立ったのはハジィだ。2位には勝点16でマイちゃん。こちらも両横綱は子どもだ。がんばれオヤジたち。



ユリー、ワッチャン おめでとう！



シリーズ 田口コレクション 第33



大相撲初場所にちなんで相撲ベーだ。

栃錦と若乃花、この両横綱の時代を

「栃若時代」と呼ぶ。

昭和28年街頭テレビで実況中継されると全国的人気となった。